

あなたとわたし

性別や年齢の違いを超えて平等にともに手を携える関係でありたいから

vol.30
2009.7月下旬号



地域の元気は自分の元気！



ふっさっ子の広場にて

【ふっさっ子の広場について】

放課後学校の中で安全な見守りのもと、子ども同士が異学年の中で自由に遊び、学びます。地域の人が得意なことを教えたり、いろいろな体験ができる場です。

※平成19年度六小で開設、平成20年度は三、五、七小、平成21年度は一、二、四小に設置され、全小学校に開設されました。ボランティア登録者数は、平成21年3月末で148人。

今いろいろな場面で「地域の力」という言葉が聞かれ、地域で力を発揮する人々の存在が重要視されています。特に団塊世代と呼ばれる、仕事をリタイアしたばかりの年代の方々、子どもが成長して一段落した方の地域活動への参加が期待感を持って語られています。

「地域では、住みよい、豊かな地域社会を作るためには、住民や団体が相互に連携し、さまざまな年代の男女が立場を越え主体的に地域活動に参画していくことが大切です。」と、市でも男女共同参画行動計画の主要課題として取り組みを進めています。

内閣府「地方再生に関する特別世論調査 -平成19年度」

によると「地域が元気になるための活動に参加したいと思う」人は男女とも全体の約7割と高水準です。

その目的としては（複数回答）

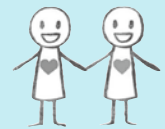
「自分自身の成長のため」 55.8%

「人のために役立つため」 65.4%

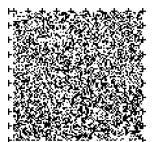
「さまざまな人々とのネットワークを深めるため」 42.8%

「地域との関係を強めるため」 40.7% などです。

そこで、こんな活動もあるのかと参考にしていただけたらと、安心できる放課後の居場所として各小学校に設けられている「ふっさっ子の広場」をご紹介します。ボランティアをされている男女お二人と、利用しているお子さんの保護者の方にお話を伺いました。（中面へ続く）



目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の内容を要約した文字情報を音声で聞くことができます。コードの横に視覚障害者の方が触って位置がわかるよう半円状の切り込みを入れたものをご希望の方に配布します。専用の読み取り装置は市内の公共施設10か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。





ご近所力で広げる「ふっさっ子の広場」一緒に

お話を伺った方

ふっさっ子の広場サポーター（ボランティア登録者）



おうちひろゆき
大内宏之さん



きしの すみえ
来住野純江さん

利用児童保護者



かとうひろこ
加藤浩子さん



くりばやし みかげ
栗林美影さん

生活の一部になって

■子どもをふっさっ子の広場に預けての様子は？

加藤 用事があるときなど安心して預けられる、また預けて、安らげるというようなこともあります。私が子どものころには、母親が用事のあるときなどご近所に預けたのですが、いまは遠慮もありそういうことはなくなりました。私も用事があるときは実家の母に頼んでいたのですが、この制度が始まってからそういうことも少なくなりました。子どもも、学校の中なので、安心して遊べるようです。

また「クラス」を超えて異学年の子と交流できることで、子どもたちの気持ちも切り替わって、いじめなどが起きにくくなるということもあると思います。

栗林 今の子は遊びというとゲーム機やカードゲームになりがちですが、ふっさっ子ではバドミントンなど、体をのびのび動かす遊びができるようです。子どもにとっても遊びの幅が広がったのではないかと思います。

親にとっても学校だから安心できるし、学童クラブは保護者が働いていないと預けることはできませんが、ふっさっ子はだれでもどうぞという形だから、助かりますね。

■生活の中でもふっさっ子は、一つの安心できる位置を占めたという面もあるんですね。

遊びの中で伝わるもの

■子どもたちを受け入れるボランティアの方の参加の

きっかけは？

大内 まず、ふっさっ子の見守り員になりました。安全確保的な役割ということでしたが、実際に活動をはじめると、子どもと一緒に遊ぼうと誘いにきます。特に、ボール遊びを好むので、一緒になって遊んでいました。

そんなころ、輝き市民サポートセンターの「談話室輝き」で出会った皆さんが、何かしらボランティアをなさっているのを知りました。私も元気なうちにボランティアをと考えていました。定年までテニスをやっていたので、卓球ならできるのではないかなと考え、福生地域体育館の卓球教室に行き、ふっさっ子の広場の主旨をお話したところ、何人かの方に賛同いただいて、去年の1月からふっさっ子の広場で卓球教室を始めました。

■教えるということではなく、一緒に遊ぶという気持ちですね。いまの時代、そういった子どもたちとの交流はなかなかできないようです。サポーターの皆さんは、地域の先輩として子どもたちにいろいろなことを示していくということなのでしょうね。

大内 そうです。卓球教室では経験豊かなサポーター（ボランティア）の方々が、最初はボール遊びから始まり、挨拶・約束事など、楽しみながら教えてます。その他ベーゴマ、竹とんぼ・草笛等昔遊びから、クリスマス飾り作り・ラッピング・百ます計算・サッカー等いろいろなプログラムを用意して、子どもたちと楽

遊びながら地域の若い家族を応援する

しんでいます。このような環境の中に一人でも多くの子どもたちが入って、自然にいろいろなことを経験し学んでくれればと思っています。

私たちにとっても一緒に遊んでいると元気がもらえます。高齢者は敬遠されがちと思っていましたが、飛びついてきたり、手をつないできたり肩に乗ったりためらいもなく懐に飛び込んできます。

来住野 私は演劇が好きで、本の読み聞かせならできかと思って始めたのですが、ワアワア遊んでいる中ではとても聞いてもらえないので、紙芝居を始めました。2人でやった方がおもしろいだろうと、夫と一緒にやってもらうことにしました。しばらく続けているうちに、子どもが「私もやってみたい」と言い出して、子どもたちの紙芝居が始まりました。やりたいと言ってきたということは私たちも楽しんでやっているのがわかったのではないかと思います。最近は「これやりたい」と持参するようになり、ただ見ている、聞いている側から、自分のやりたいものを持ってくるようになって、感激しました。

そういったことがとても楽しいですね。

■子どもたちの「やりたい」を引き出せたということですね。

来住野 何か特技をお持ちで、こういうことができるという方も大勢いらっしゃると思うので、ぜひ生かしてほしいと感じます。

また特に何かができるということでも、ボランティアとして一緒に遊べるということでもいいと思います。教える場ではなく、楽しい場がいいと思っています。

■特に何か得意なことがなくても、地域の人と子どもたちが一緒に遊ぶ場だということがいいのでしょうか。

生活にご近所力を

■サポーターの皆さんから、保護者の方に対しては何かありますか？

来住野 いまは働いている方が多くて、なかなか子どもと十分接することができない方もいらっしゃると思います。「おばちゃん」と声をかけてきて、なかなか

離れない子もいるんですよ。

大内 両手で抱き上げて「高い高い」のスキンシップをすごく好むのです。「家でもお父さんにしてもらえば」と言うと、「お父さんいつも帰りが遅いし、日曜日は寝ていて、どこかに行っちゃうし…」というのです。

加藤 確かに親の側にゆとりがないと、子どもにどう接していいのかわからないということがあるかもしれません。スキンシップは大切だと思います。

■子育ては家庭だけではなく地域の力が必要であり、その一つが「ふっさっ子の広場」なのかもしれません。

加藤 地域の方はお子さんに興味がありながらも一歩踏み込めないかもしれません。サポーター募集の呼びかけを数多く行って、参加される方のために研修会や話し合いの場があったらいいと思います。

■「ふっさっ子のひろば」は子どもたちだけではなく、サポーターの方にとっても大きな楽しみになるということもありますね。地域の子どもの顔を覚えて、住民の交流の場にもなり得る。そこから何か生まれるものがあるのではないのでしょうか。

大内 私もボランティアをするのに、10年かかりました。最初の一步がなかなか踏み出せないのです。少々の勇気が必要かもしれません。これらの活動に参加して頂けるボランティアの皆さんをお待ちしています。きっと子どもたちの笑顔からいっぱい元気を貰えるものと思います。

来住野 本当に楽しいですよ。紙芝居を見て「おばちゃん、おもしろかったよ」と言ってもらえると、実感します。

「ふっさっ子の広場」のこれから

加藤 これからも、ぜひ継続してほしいと思います。

栗林 立ち上げのときにボランティア募集という話を聞いて、形だけつくっても本当にうまくいくのだろうかという思いはありました。ですが、今日こうやってお話を聞いて、すごくいい形で動いて、充実しているのが実感できます。

大内 保護者の皆さんにも、もっと関心を持ってかわわっていただけたらと考えています。親同士の



横のつながりが重要であり大切だと思っています。今はよその子を叱ったりすることができない。でもふっさっ子を通じて顔見知りになれば、地域の子どもたちに注意もできます。叱るのもお互いのコミュニケーションと信頼関係がなければ難しいことです。

子どもたちにとっては大切なふるさとであり、ふっさっ子が楽しい思い出づくりの場になれば本当に嬉しいですね。

来住野 活動を知らせるような機会がたくさんあればいいと思います。

■お子さんが通ってなくても、たくさんのご近所の皆さんに、ますますの参加を呼びかけていきたいですね。男性も女性も、いろんな方が地域の子どもの育ちに関わっていくことが豊かな地域社会作りにつながるということでしょうか。

あなたとともに考えます

●女性悩みごと相談(予約制)●

内閣府「男女間における暴力に関する調査(平成20年度)」では、配偶者からの被害経験が「何度もあった」という女性は10.8%に。また男女間における暴力の防止に必要なこととして、7割の人が「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」を挙げています。**福生市では身近な相談窓口として女性悩みごと相談を設けています。**自分自身の生き方、家族関係や職場の人間関係のこと、夫や恋人からの暴力などさまざまな悩みごとの相談に専門の女性カウンセラーが応じます。相談の内容については秘密を厳守しますので、安心してご相談ください。電話相談も可。※無料です。

福生市・羽村市にお住まいの女性ならどちらの市でも相談を受けられます。

※予約は相談日の1か月前から。1日先着3人まで。

福生市相談日	羽村市相談日
毎月第2・4水曜日 午前9時～午後1時	毎月第1・3・5水曜日 午後1時30分～4時30分
申込み先：秘書広報課広報 広聴係 ☎ 551-1568	申込み先：広報広聴課市民 相談係 ☎ 555-1111(代)

その他の相談窓口

配偶者暴力相談支援センター

- 東京ウィメンズプラザ ☎ 03-5467-2455
9:00～21:00(年末年始を除く)
- 東京都女性相談センター ☎ 03-5261-3110
9:00～20:00(土・日・祝日、年末年始を除く)
- 東京都女性相談センター多摩支所 ☎ 042-522-4232
9:00～16:00(土・日・祝日、年末年始を除く)

警察

- 警視庁総合相談センター ☎ 03-3501-0110
8:30～17:15(土・日・祝日、年末年始を除く)



ご存知ですか? 男女共同参画情報コーナー

輝き市民サポートセンター(福生駅西口プチギャラリー4階)に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。問合せ:輝き市民サポートセンター 電話 042-551-0166

市民編集員募集!

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための男女共同参画情報誌です。ご感想をはじめ、今後特集で取り上げてほしいテーマなどのご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。ホームページからもお送りいただけます。トップページ左側の市民のご意見箱をクリック、メールフォームをご利用ください。

- 市民編集員** ○柏倉利明 ○輿水和田代 ○寺崎敏枝
○浜原幸恵 ○Saeko.S(イラスト)
○神蔵祥恵(写真協力)

企画編集 NPO法人 NAFA 子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.30 2009年7月下旬号

発行:福生市 生活環境部 協働推進課

〒197-8501 東京都福生市本町5番地 電話 042-551-1590

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

広告スペース

広告スペース